

藤井青銅「作家的発想法～自分の頭を柔らかくする」

10 最終回のテーマ「5つのアプローチ」と「書くということ」

「書きたい」という意欲はあるが、書いているうちに「自分はなにを書きたいのか」がわからなくなる。あるいは「自分になにが書けるのか」がわからない。
そういう時はこの全講義を振り返ってもらいたい。

①(コラム) 切り口1「法則」

ポイントは「観察力と言語化」～よく見て、それを言葉にして、読者に伝える。

②(コラム) 切り口2「辞書・辞典」

ポイントは「基本を知るから崩せる」～いろいろなものの「基本」を知っておく。

③(小説) アイデアの出し方

ポイントは「強制発想法」～自分の頭は固いことを自覚して、柔らかくする努力を。

④(小説) 物語のパターン

ポイントは「話の骨格をつかむ」～既存の物語をアレンジして、オリジナルを作る。

⑤(社会派エッセイ) 雑学を越えるもの

ポイントは「着目→収集→分類→分析→提言」～後段によって、個性が出せる。

この5つのアプローチのどれか(or 複数)を活用すれば、書き方のヒントが見つかる。

「書く」を続けていく、ということ

一つのジャンルに固執する必要はない。いくつかの「逃げ場所」を用意しておいた方が、長く書き続けていくことができる。

*

受講していただきありがとうございます。

これから先、あなたが何かを書く時にこれを思い出すことで、なんらかのお役に立てたなら嬉しく思います。

藤井青銅